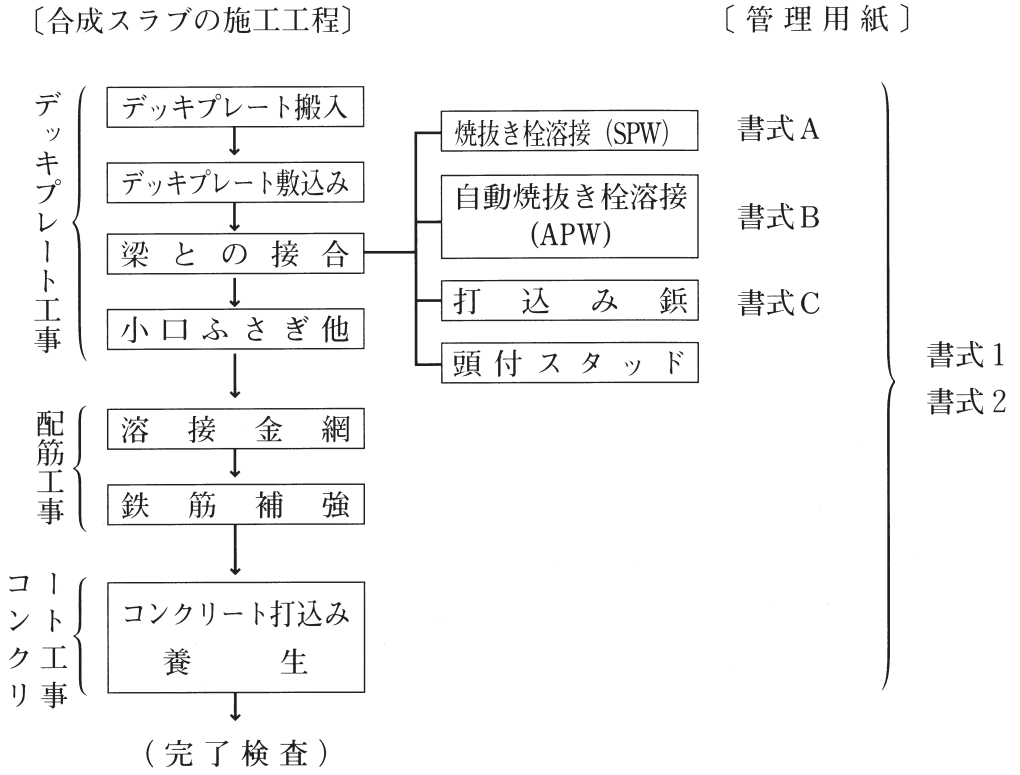
7．チェックシート・検査・報告

合成スラブの施工を正しく管理して頂くため、合成スラブの工事検査の管理用紙を会員各社で用意しています。施工管理、検査および報告等に利用して下さい。

（1）工事工程と管理用紙



（2）管理用紙の使い方

書式－A「焼抜き栓溶接施工結果報告」（SPWのチェックリスト）（122，123頁）
デッキ施工者が焼抜き栓溶接（SPW）を施工した場合、施工管理者に提出して下さい。

書式－B「自動焼抜き栓溶接（ＡＰＷ）のチェックリスト」（124頁）
デッキ施工者が自動焼抜き栓溶接を施工する場合の自主管理用に使用して下さい。

書式－C「打込み鋲のチェックリスト」（125頁）
デッキ施工者が打込み鋲を施工する場合の自主管理用に使用して下さい。

書式－1「合成スラブの施工状況報告書」（126頁）
確認機関より提出を求められた際に使用する用紙です。工事監理者が施工状況を確認の上記入して下さい。

書式－2「合成スラブの施工管理項目チェックシート」
工事監理者、施工管理者が合成スラブの全体の管理チェックシートとして使用して下さい。
梁が鉄骨のとき　　：「書式－2（1）鉄骨造」（127頁）
梁がＲＣ（ＳＲＣ）のとき：「書式－2（2）ＲＣ造」（128頁）
Ｓ・ＲＣ併用のとき　　：「書式－2（1）鉄骨造」および「書式－2（2）ＲＣ造」を使用して下さい。

A　焼抜き栓溶接施工結果報告（1）

書式−A(1)

焼抜き栓溶接施工結果報告

年　　月　　日

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿殿

会社名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　氏　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印

住　所＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　電　話＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

下記建築物の合成スラブ用デッキプレートと梁との焼抜き栓溶接による接合にかかわる検査結果について次のとおり報告します。

建築概要	工事名称				
	建設場所				
	構造・規模	□鉄骨造　□鉄骨鉄筋コンクリート造　（　　）階			
デッキプレートの概要	種類	□溝広タイプ □溝狭タイプ	梁上フランジの概要	□黒皮　□一般さび止め塗装 板厚（　～　）mm	
	高さ	□50　□75	溶接機	□交流アーク溶接機（　A） □エンジンウェルダ（　A）	
	板厚	□1.2　□1.6	溶接棒（φ4mm）JIS Z 3211	□E4316 □E4916	電流値（　A）
	表面処理	□亜鉛めっき　□塗装			

番号	検査の日付	検査内容
1		溶接機の選定が正しいことを確認した。
2		溶接機の電流値を確認した。
3		低水素系被覆アーク溶接棒を使用した。
4		径がφ4mmの溶接棒を使用した。
5		溶接棒は乾燥した新しい棒を使用した。
6		溶接作業者の資格を確認した。
7		溶接部の汚れ、水分を除去した。
8		梁フランジとのすき間は2mm以下であることを確認した。 （梁フランジとのすき間が大きい場合はハンマリングをした）
9		余盛径は18mm以上であることを確認した。
10		デッキプレートの焼切れがないことを確認した。
11		余盛不足がないことを確認した。
12		不具合箇所は正しく補修をした。
13		溶接箇所の位置を確認した。 ・デッキプレート長手方向　・デッキプレートの端あき ・デッキプレート幅方向　・梁材のへりあき
14	添付図書	1）工事写真　2）溶接技能者資格証（写）
15	備考	

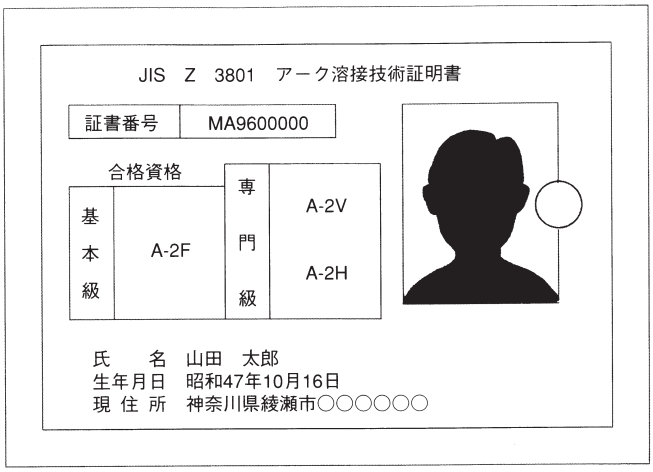
検査者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印

A　焼抜き栓溶接施工結果報告（２）

書式－A(2)

添 付 図 書 （例）

溶接技能者資格証（写）



工事写真

１）工事施工中写真

・工事名称

・施工箇所

・撮影月日

などを明示

（写真は一例を示す）

２）焼抜き栓溶接仕上り写真

・工事名称

・施工箇所

・撮影月日

・余盛径

などを明示

B　自動焼抜き栓溶接（ＡＰＷ）のチェックリスト

書式－Ｂ：自主管理用紙

（施工管理用）
（平成17年３月改訂）

自動焼抜き栓溶接（ＡＰＷ）のチェックリスト

チェック時期	番号	チ　ェ　ッ　ク　項　目	確　認
デッキプレートの施工時	1	梁の上面は清掃されているか。（ごみ，油，水，その他）	
	2	柱回りおよび梁継ぎ手部のデッキプレート受材は付いているか	
	3	デッキプレートの梁上のかかり代は50mm以上あるか	
焼抜き栓溶接の施工時	4	電流，電圧，アークタイムを チェックしたか	
	5	ワイヤはYGW 11または12か	
	6	ワイヤ径は φ1.2mmか	
	7	ノンスパッタ液が準備されているか	
	8	溶接部の汚れ，水分の除去を行ったか	
	9	梁とデッキプレートの隙間は２mm以下になっているか	
	10	余盛り径は25±３mmか	
	11	所定の位置に溶接されているか	
	12	デッキプレート長手方向のピッチは正しいか	
	13	デッキプレート焼切れ等の溶接欠陥はないか	
	14	不良個所の修正は正しく行われているか	
特記事項			

工　事　名　称：

施　工　場　所：

調　査　日	年　月　日
調　査　者	

C　打込み鋲のチェックリスト

書式－C：自主管理用紙

（施工管理用）
（平成27年４月改訂）

打込み鋲のチェックリスト

□　ヒルティ鋲

チェック時期	番号	チェック項目	確認
デッキプレートの施工時	1	梁の上面は清掃されているか。（ごみ，油，水，その他）	
	2	柱回りおよび梁継ぎ手部のデッキプレート受材は付いているか	
	3	デッキプレートの梁上のかかり代は50mm以上あるか	
打込み鋲の施工時	4	空包消費許可証はあるか	
	5	作業者資格証はあるか	
	6	鋲打銃の作動は正常か	
	7	梁フランジ厚は６～32mmに入っているか	
	8	梁とデッキプレートの隙間は２mm以下になっているか	
	9	梁材のへりあきは15mm以上あるか	
	10	デッキプレートの端あきは25mm以上あるか	
	11	所定の位置に打鋲されているか	
	12	デッキプレート長手方向のピッチは正しいか	
	13	鋲立上り長さは規準値内であったか*1	
	14	不良個所の修正は正しく行われているか	
特記事項			

注*1）鋲立上り長さの規準値
ヒルティ鋲：8.2～9.8mm

工事名称：

施工場所：

調査日	年　月　日
調査者	

施工状況報告書

書式－１：確認機関提出用紙

（工事監理用）
（平成17年３月改訂）

合成スラブの施工状況報告書

工事監理者　氏　名	報告年月日
印	年　月　日

建築概要	工事名称		用途	
	建設場所			
	構造・規模	造　　階	延床面積	m²
床の設計仕様	デッキプレートの種類	溝広タイプ（　），溝狭タイプ（　）	板厚	1.2･1.6･めっき･塗装
	梁との接合方法	焼抜き栓溶接（SPW・APW），打込み鋲，頭付きスタッド		
	コンクリートの種類	普通・軽量		
	コンクリートの厚さ	デッキプレート山上（mm）　70, 80, 85, 90, 95, 100,（　）		
	耐火仕様	連続支持合成スラブ（2時間，1時間），単純支持合成スラブ（2時間，1時間）その他（　）		

	管理項目	確認	指導事項
(1)デッキプレート敷込み工事	①ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄは設計図書通りで、材料に著しいねじれや局部変形はないか		
	②柱回り、梁継ぎ手部のﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ受材は付いているか		
	③ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄは２ｽﾊﾟﾝ以上にわたって連続的に小梁等で支持されているか ＜連続支持合成スラブの場合＞		
	④ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄの梁上のかかり代は所定の寸法が確保されているか		
	⑤ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ相互の接合は有効になされているか		
	⑥梁との接合は焼抜き栓溶接（SPW・APW)、打込み鋲、頭付きｽﾀｯﾄﾞで正しく施工されているか		
	⑦ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄのｺﾝｸﾘｰﾄ漏れ止めは小口ふさぎ等で正しくなされているか		
(2)配筋工事	⑧溶接金網または異形鉄筋は所定のｻｲｽﾞで床全面に敷込まれているか		
	⑨溶接金網または異形鉄筋の継ぎ手部、重ね代とｺﾝｸﾘｰﾄかぶり厚さは規定通りか		
	⑩単純支持合成ｽﾗﾌﾞの耐火補強筋は所定のｻｲｽﾞ・位置が確保されているか 〈耐火構造１時間溝狭ﾀｲﾌﾟの場合は２段配筋〉		
	⑪開口部補強と端部補強筋等は正しく施工されているか		
(3)コンクリート工事	⑫ｺﾝｸﾘｰﾄの種類・強度・ｽﾗﾝﾌﾟは設計図書通りか		
	⑬床ｽﾗﾌﾞの厚さは確保されているか		
特記事項	焼抜き栓溶接標準寸法：＊ＳＰＷ：手溶接→余盛り径18mm以上 ＊ＡＰＷ：自動溶接→余盛り径25mm±３mm デッキプレートの種類：商品名を記入		

合成スラブの施工管理項目・チェックシート（１）

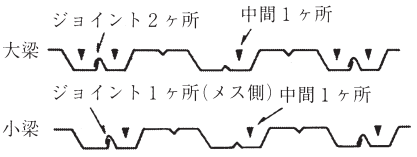
書式－２：自主管理用紙（１）鉄骨造

（施工管理用）
（平成17年３月改訂）

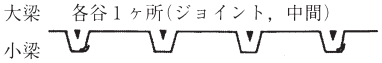
合成スラブの施工管理項目・チェックシート（鉄骨造）

区分	管理項目	内容	確認	是正
デッキプレート敷込み	1. デッキプレートの種類	合成スラブ用デッキプレート：板厚(1.2,1.6)(Z12,Z27,塗装)		
	2. デッキプレートの形状	設計図書通りで、著しいねじれや局部変形がないか		
	3. ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄの割付け計画	割付け計画が出来ているか		
	4. 連続支持	デッキプレートは、２スパン以上にわたって小梁等で支持されているか〈連続支持合成スラブの場合〉		
	5. 幅調整金物	調整幅は、200mm以下か		
	6. 小口ふさぎ	合成デッキ用を使用しているか、谷部をふさいでないか		
	7. 梁へのかかり代	デッキプレート長手方向50mm以上、幅方向50mm以上（頭付きスタッド使用の場合幅方向30mm以上）		
	8. デッキプレート受材	柱　回　り：FB65×6(APWの場合はFB65×9)取付位置はｽﾊﾟﾝ方向 梁継ぎ手部：FB65×6(APWの場合はFB65×9)取付位置はｽﾊﾟﾝ方向、幅方向		
	9. ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄと梁とのすき間	すき間は２mm以下か		
	10. ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ相互の接合	デッキプレート相互の接合（嵌合）がしっかりとなされているか		
	11. 幅方向割付調整	幅調整金物とデッキプレートの接合がなされているか		
梁との接合	12. 接合工法の種類	頭付きスタッド、焼抜き栓溶接(SPW, APW),打込み鋲のいずれか		
	13. 電源の確保	仮設電源：SPW(18KVA)，APW(18KVA) 発電機　：SPW(ｴﾝｼﾞﾝｳｪﾙﾀﾞ230A)，　APW(35KVA以上)		
	14. 機器の準備等	頭付きｽﾀｯﾄﾞ溶接：デッキプレートを事前にアークスポット溶接する 焼抜き栓溶接：溶接機容量SPW(250A以上) ：溶接棒　低水素系 φ４mm他 自動焼抜き栓溶接：「らくらくデッキウェルダ」 ：φ1.2mm ソリッドワイヤ 打込み鋲：専用建設用鋲打ち銃		
	15. 施工状況の確認	頭付きスタッド溶接：15°打撃曲げ試験 SPW(焼抜き栓溶接)　：余盛径（18mm以上） APW(自動焼抜き栓溶接)：余盛径 (25± 3 mm) 打込み鋲：鋲の立ち上がり長さℓ ヒルティ鋲：8.2～9.8mm		
	16. 焼抜き栓溶接、打込み鋲施工の良否	施工位置は正しいか、欠陥部分の修正確認は済んだか。		
配筋工事	17. 溶接金網または鉄筋のサイズ	設計図書との照合（径6-150×150, 径6-100×100,D10-200×200）		
	18. 重　ね　代	溶接金網１メッシュ＋50mm　異形鉄筋 45 d mm		
	19. かぶり厚さの確保	床スラブ上面から30mm		
	20. 耐火補強鉄筋	単純支持合成スラブ：デッキプレート各溝に耐火補強筋 D13を配筋 (耐火構造１時間溝狭デッキは、山上15mmに溶接金網-2段)		
	21. 開口部補強と補強筋	デッキプレートおよびコンクリートの補強配筋は、設計図書通りか		
コンクリート工事	22. 漏れ止め	デッキプレート端部、切り欠き部に漏れ止めを行っているか		
	23. 種類、スランプ	普通コンクリート、軽量コンクリート、スランプは確認したか		
	24. 床スラブ厚	床スラブ厚さは、設計図書通り確保されているか		
	25. 養　　生	コンクリート打込み後に、荷重、振動を与えない		

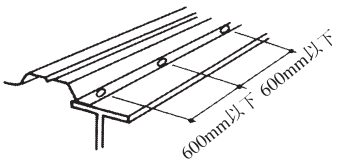
イ）溝広タイプの場合



ロ）溝狭タイプの場合



ハ）デッキプレート長手方向上



調査日	年　月　日
調査者	

合成スラブの施工管理項目・チェックシート（２）

書式－２：自主管理用紙（２）ＲＣ造

（施工管理用）
（平成17年３月改訂）

合成スラブの施工管理項目・チェックシート（ＲＣ造）

区分	管理項目	内容	確認	是正
デッキプレート工事	1. デッキプレートの種類	合成スラブ用デッキプレート（溝広タイプ）： 板厚（1.2, 1.6), (Z12, Z27, 塗装)		
	2. デッキプレートの形状	設計図書通りで、著しいねじれや局部変形がないか		
	3. ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄの割付け計画	割付け計画が出来ているか		
	4. 幅調整金物	調整幅は、200mm以下か		
	5. 小口ふさぎ	合成スラブ用デッキプレートを使用しているか。 谷部を塞いでないか		
	6. RC梁ｺﾝｸﾘｰﾄへののみ込み	デッキプレート長手方向30mm， デッキプレート幅方向10mm以上		
	7. 型枠への釘止め	デッキプレートは型枠に釘等で確実に止めているか		
	8. ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ相互の結合	デッキプレート相互の接合（嵌合）がしっかりとなされているか		
	9. 幅方向割付調整	幅調整金物とデッキプレートの接合がなされているか		
配筋工事	10. 溶接金網または鉄筋のサイズ	設計図書との照合（径6-150×150, 径6-100×100, D10-200×200)		
	11. 端部補強鉄筋	ＲＣ梁部の端部補強配筋はされているか		
	12. 重ね代	溶接金網１メッシュ＋50mm　異形鉄筋45ｄmm		
	13. かぶり厚さの確保	床スラブ上面から30mm		
	14. 耐火補強鉄筋	単純支持合成スラブ：デッキプレート各溝に耐火補強筋D13を配筋		
	15. 開口部補強と補強筋	デッキプレートおよびコンクリートの補強は、設計図書通りか		
コンクリート工事	16. 漏れ止め	デッキプレート端部、切り欠き部に漏れ止めを行っているか		
	17. 種類、スランプ	普通コンクリート、軽量コンクリート、スランプは確認したか		
	18. 床スラブ厚	床スラブ厚さは、設計図書通り確保されているか		
	19. 養生	コンクリート打設後に、荷重、振動を与えない		

調査日	年　月　日
調査者	